

令和 4 年 5 月 7 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03401

研究課題名(和文) 古代ギリシア文明における超越と人間の価値 欧文総合研究

研究課題名(英文) Transcendence and Human Beings in Ancient Greek Civilisation

研究代表者

納富 信留 (Notomi, Noburu)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：50294848

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,240,000円

研究成果の概要(和文)：古代ギリシアで議論された「人間と超越」の問題をめくり、多数の国際学会で研究発表を行い、英語・日本語での雑誌論文や研究書の公刊を行った。国際的な学術活動では、ブラジルとフランスで開催された国際プラトン学会IPSの2度のプラトン・シンポジウムにメンバー多数が参加して研究発表を行い、同学会が台湾と韓国で開催した「東アジア地区大会」では運営に携わって、基調講演や複数の研究発表を行った。それらの成果はそれぞれの研究成果論文集で発表されている。国内でもギリシア哲学を中心に多数の研究著書や論文を発表し、「世界哲学史におけるギリシア哲学」という主題にも取り組み、国内外に大きな学術的刺激を与えることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「超越と人間の価値」というテーマは現代社会や哲学では看過されがちな根本問題であり、その考察を東アジアを中心に国際的な学術研究の場で英語などで積極的に発信することができた。とりわけプラトン哲学の研究では日本が世界の拠点の一つであること、東アジア諸地域で中心の役割を果たすことが広く認識されている。本プロジェクトの課題は古代哲学・文化研究という狭い枠組みを超えて「世界哲学」という視野や、「対話」の学術的意義、ゲノム編集と人間存在といった現代倫理学への視座などを提供している。それらは日本語で書かれた多くの研究書、一般概説書に結実し、研究者だけでなく広く一般社会でも高い関心を引きつけている。

研究成果の概要(英文)：The project made presentations at numerous international conferences and published English and Japanese papers in academic journals and research books on the issues of human beings and transcendence developed in ancient Greek civilization. Several members participated in the two "Symposium Platonium" of the International Plato Society held in Brazil and France in 2016 and 2019, and presented their research. The project supported the IPS East Asia Regional Meetings held in Taiwan and South Korea in 2018 and 2020, and gave two keynote speeches and several research presentations. The results were published in English in the respective proceedings. In Japan, a number of research books centered on Greek philosophy were published. The project has been expanded to reexamine "Greek philosophy in World Philosophy", and was able to disseminate many achievements both inside and outside the country.

研究分野：哲学、西洋古典学

キーワード：西洋古典 哲学 超越 人間 古代ギリシア

1. 研究開始当初の背景

プロジェクトの開始にあたり、それまでの研究活動を背景に、次の 3 点を重視して研究を計画した。

(1) 西洋古典学の可能性を広げる

本研究は、プラトンの「正義論」に焦点をあてて国際的な研究成果を発表してきた前 2 期の科
研費基盤研究 (B) プロジェクトを受け、その研究メンバーが共通に関心を高めてきたテーマと
して、現代の社会や哲学でほとんど語られることのない「超越 (transcendence)」の理念を取
り上げる必要を強く感じていた。古代的、あるいは宗教的として無視されがちなこのテーマから、
現実と人間の価値をもう一度見直し、振り返ることを目指し、多角的に議論を始めていた。それ
まで進めてきたプラトン正義論を中心とする「人間存在・魂」への考察は、超越という観点から
新たな場面に移される。その意味で、本プロジェクトはそれまでの 2 プロジェクトを補完し完
成させるものとなる。

「超越」とは、単に私たちが生きるこの世界や状況を離れ、別の地平を求めるといったことでは
ない。それは、人間本来の姿を根柢まで遡源することで、私たち自身が「魂」として浄化・変
容し、私たちが生きる世界が真の存在へと開かれることを意味していた。プラトンはこの理念を
「イデア論」として追求したが、その背景にはギリシア人の宗教 (ホメロス、ヘシオドスの伝統
的宗教、自然哲学者の神論、ピュタゴラス・オルフェウス教など) があり、プラトン主義、キリ
スト教、イスラーム、近代科学、文学・芸術に決定的な影響を与えている。その意義への歴史
的な反省は「こころ、生命、共同体、地球環境」といった現代の問題に新たな視野を与える。「超
越」の具体的切り口として、近代日本で取り入れられた「理想 (ideal)」という概念にも注目す
る。

本研究は、西洋古典文学、西洋古代哲学、古代ギリシア・ローマ史専門の専門研究者が協力し
て、総合的なアプローチによって「西洋古典学 (Classics)」が地球規模で新たな問題を抱えてい
る現代社会に貴重な示唆を与えることを目指した。

(2) 国際的な学術活動の中核となる

本プロジェクトは多くの国際学会や研究集会に関わって国際的な研究活動と発信にあたって
きた。とりわけ国際プラトン学会 (IPS: International Plato Society) の活動と緊密に連携し、
国際的な場でプラトンと古代ギリシアの研究にあたる役割を担っている。研究代表者の納富信
留は 2007~2010 年に IPS の会長をつとめ、2010 年 8 月にアジアで初めて東京・慶應義塾大学
で開催した「第 9 回プラトン・シンポジウム」を主催した。研究分担者の栗原裕次は 2013~2016
年に IPS の実行委員 (アジア・オセアニア・アフリカ地区代表) をつとめ、他メンバーと共に
IPS の活動に参加して多数の研究発表を行なっている。前科研プロジェクトでは 2014 年 4 月
には慶應義塾大学日吉キャンパスで第 1 回 IPS アジア地区大会として国際シンポジウム「プラ
トンとレトリック」を開催し、アジアと欧米の研究を結びつける場を成立させた。

本研究が謳う「欧文総合研究」は、この国際研究をより一層推進し、日本をその拠点として発
展させ発信するという意味である。本プロジェクトは、台湾で開催されることが決まっていた第
2 回 IPS アジア地区大会と、やはり韓国で開催が企画されていた第 3 回 IPS アジア地区大会の
運営を助けて積極的に参加すること、並びに IPS の「プラトン・シンポジウム」(ブラジリア大
会、パリ大会) に参加することを目標とした。

日本語で遂行される「理想」「超越」といった哲学理念の究明は、それらの哲学用語を明治期
以来日本から移入した東アジア文化圏での哲学活動にも光を当てる。本研究グループはこれま
で、韓国、台湾、中国、香港、シンガポールといったアジア地域の研究者と国際学会で共同討
議してきたが、この人脈や共同研究の基盤をさらに発展させ強固にする国際研究活動を企画し、
テーマとして「超越」「魂」「理想」を掲げることで、欧米での異なった関心との接点、対照性、共
通性を明らかにしながら、全世界的な学術の共同態勢を構築していくことを目指した。

(3) 現代社会への人文学の発信を行う

「超越と人間の価値」とは、西洋では古代から人文学が担ってきた最大のテーマと言ってよい。
その貴重な知見を現代社会でどう正しく伝承し、そこから現代社会の諸問題に関わっていくか
が重要である。そこでは西洋古代哲学だけでなく、現代倫理学や臨床哲学との架け橋が模索され
る。

研究代表者の納富信留はこれまでの研究から、プラトンの「イデア」に由来する「理想」とい
う哲学理念を現代にどう甦らせるかが、哲学の使命の一つと考えた。東日本大震災や福島原発
事故といった状況を踏まえ、そこで「人間の生」の意義をどう回復するかは、実践的な行政や科
学技術の問題ではなく、人文学こそがその解明にあたるべきであり、その一つの切り口として
「理想」「超越」への哲学的・哲学的的反省があると考えている。また、研究分担者の田坂さつ

きはゲノム編集という最新技術が人間の価値に及ぼす倫理的問題の根本検討を行うなど、現代の科学技術を倫理をテーマに各分野の専門家と議論している。それらの研究では、古代ギリシア哲学から現代への「超越」という視座が一定の役割を果たすことが期待されている。

古代ギリシア文明の本格的な学術研究が、単に大学の学術領域に留まるものではなく、現実の社会や人間の諸問題に直接的かつ有益な示唆を与えることが本研究から示されれば、人文学を中心とした「知の再構築」にとっても大きなモデルケースとなる。現代の人間のあり方を「超越」という視点から考えることには、例えば「生と死」の根本問題を医療(科学技術)や福祉(経済・社会)の観点からだけでなく、人間そのもののあり方として再考する場面が考えられる。有限な生命の「時間」を越えてその根拠となる「永遠」の相からどう捉えるか、この世界を新たな視野からどう見るかといった、一見浮世離れした人文学の問題提起が、より根源的な意義を持つことが明らかとなる。現在の日本社会、そして世界の諸文化において、古代ギリシア文明とその精華というべきプラトン哲学がもつ現代的意義が試される。

2. 研究の目的

本研究は古代ギリシア文明が生み出し後世に残した現実への視座を「超越」に同定し、現代の世界と日本でその視点をもつ意義を研究し、欧語で世界に発信することを目的とした。

本研究の代表と研究分担者、連携研究者はこれまで西洋古代文学と古代哲学、とりわけプラトンとその背景・伝統を中心に国際的な活動を展開し、世界的に高く評価されてきた。その研究をさらに発展させて現代にメッセージを発するため、古代の詩や宗教の伝統で培われた「超越」の視点を、プラトン哲学から哲学理論として解明していく。不死なる神との関係において「人間の価値」が改めて浮かび上がり、現代の私たちの生き方に大きな示唆が期待される。その文化的・思想的・歴史的展開を文学・哲学・歴史の専門家が総合的に考察し、欧語(主に英語)と日本語の両媒体で世界に向けて発表していくことを目指す。

3. 研究の方法

本研究の計画は次の4つの柱をもって遂行された。

- (1) 欧文での研究発表・論文公表
- (2) 国際シンポジウム開催
- (3) 各拠点大学での共同研究会
- (4) 研究成果を日本語・欧語でまとめる

これら4つの柱を有機的に結合するため、年に数回の研究集会を開いて研究メンバーが相互に成果を発表し検討する。また、国内外から専門研究者を招いて一緒に議論する。そういった開かれた国際的な研究をつうじて、若手や学生が世界で活躍する機会と刺激を与えていく。

4. 研究成果

繰越期間を含めて6年間にわたる本プロジェクトの研究では、途中で研究分担者と連携研究者の入れ替えが行われたが、全体として極めて多数で優秀な成果を挙げることができた。その間の研究代表者と研究分担者による研究業績は、学術論文計42本(うち欧文論文は6本)、学会発表計56回(うち国際学会発表は29回)、著書28冊(うち6冊は欧文研究書の共著)であった。当初目的とした欧文での研究書刊行までには至っていないが、今後も蓄積した成果を単行本にすべく継続して研究を続けていく。

各年度の成果報告の前に大きな特徴を確認しておく、3点がある。

まず、当初の研究計画にほぼ沿う形でIPSを中心とした国際的な学術活動を主導し、東アジアでの地区大会を2度にわたってサポートした。プロジェクト・メンバーは主にこの活動をつうじて東アジアや世界各地との研究連携を図った。

第2に、国内ではギリシア哲学を中心とする西洋古典学の研究成果を書籍の形で公刊し、大きな貢献をなした。単著としては栗原裕次『プラトンの公と私』、土橋茂樹(連携研究者)『善く生きることの地平』、『教父と哲学』、納富信留『ギリシア哲学史』などがあり、最後の成果は2022年3月に和辻哲郎文化賞(学術部門)を受賞し評価された。

第3に、当初に立てられた計画を超えて発展した部分がある。まず、2018年の世界哲学会WCP北京大会をきっかけに日本哲学界の全体で推進を始めた「世界哲学(World Philosophy)」のプロジェクトに参画した。納富信留が共同編集したちくま新書『世界哲学史』全8巻+別巻では古代ギリシア・ローマ哲学の部門で多くのメンバーが執筆を担当し、本プロジェクトの成果を活かして「世界哲学としてのギリシア哲学」を論じる可能性を展開した。また、田坂が主にゲノム編集の現代倫理的な問題を論じまとめた共編著『人のゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して』は重要である。これらは、人間と超越という本プロジェクトの主題に関わりながら遂行され、プロジェクト・メンバーに共有されて議論された。

以下、年度ごとの活動と成果を報告する。

【2016年度】

プロジェクト・メンバーは以下の国際学会・研究集会に参加し、英語で学会発表を行なった。**2016年7月**にブラジル・ブラジリアで開催された国際プラトン学会「第**11**回プラトン・シンポジウム」では、テーマであるプラトン『パイドン』について納富信留と荻原理が研究発表を行い、栗原裕次は学会運営委員として司会などを務めた。その前後にサンパウロで開催された研究集会でも、納富と荻原がそれぞれ研究発表を行った。**8月**には韓国・ソウル大学で開催された現代哲学学会で納富が報告し、**10月**にシンガポールのイェール NUS で開催された国際研究集会で栗原と納富が研究発表を行った。また、**4月**にポルトガル・リスボンで開催された国際学会、及び、**2017年1月**にギリシア・アテネで開催されたワークショップでは田坂さつきが研究発表を行った。

栗原裕次『プラトンの公と私』（知泉書館）が長年の研究成果として刊行され、**12月**にはその著書を主題にした合評会を開催した。**2013年**にイタリア・ピサで開催された国際プラトン学会「第**10**回プラトン・シンポジウム」の研究論文集 *Plato in Symposium (Academia Verlag)* が出版され、納富と栗原の論文が掲載された。

海外からの研究者としては、**9月**にベルリン・フンボルト大学の古代科学史フィリップ・ファンデアイク教授を招き、ガレノスの哲学について講演会を開催した。国内での共同研究集会としては、**9月**にブラジルでの国際プラトン学会報告会を開催し、**3月**に研究報告会を開催した。

【2017年度】

2017年5月に立正大学を会場に、オイヴィンド・ラッバス教授（ノルウエー・オスロ大学）によるアリストテレス哲学講演会を開催した。**11月**にはミカイル・パラマチス教授（イギリス・オクスフォード大学）をゲストに招いて、立正大学でプラトン『ソフィスト』についての講演会を、**12月**には早稲田大学を会場にアリストテレスの質料形相論のセミナーを開催した。さらに、**2018年1月～2月**にはフランチェスコ・アデモッコ教授（イタリア・フィレンツェ大学）を東京大学文学部に招いて、プラトン『クラテュロス』の講演会を開き、プラトン『ティマイオス』のセミナーを共催した。

納富は**2018年3月**にオランダとフランスで古代哲学研究者たちと研究打ち合わせをし、エクスプロバンス大学（フランス）で、プロタゴラスの『神々について』（断片）について研究発表をして参加者と議論した。また、国内での研究会を複数回開催し、メンバーが最新の研究成果を報告し議論した。

【2018年度】

2018年4月に、台湾・台北市の中国文化大学で第**2**回国際プラトン学会アジア地区研究大会（テーマは **Forming the Soul: Plato and his Opponents**）を開催し、主催者である **Hua-kuei Ho** 教授（台湾、中国文化大学）をサポートして、栗原と田坂が実行委員に加わった。納富は基調講演を行い、荻原ら多数の日本人研究者が発表した。**5月**には、ジョージアのトビリシ国立大学で開催されたプラトン哲学の国際学会で納富が招待講演を行い、**6月**にイスラエル・バーイラン大学で開催されたプラトン哲学の伝統をめぐるシンポジウムでは、納富と近藤智彦が、また、**8月**に台湾・国立政治大学で開催された **CCPEA2018** では納富が、それぞれプラトン哲学をめぐる研究発表を行った。

8月半ばに北京で開催された **FISP** 主催の世界哲学大会（**WCP**）では、多くのプロジェクト・メンバーが参加して発表・司会等を行ったが、特に栗原裕次が国際プラトン学会セッションを主催し世界各国からの参加者と議論した。**8月末**にサンクト・ペテルブルクで開催された国際プラトン学会主催の国際シンポジウムには栗原が役員として参加し、田坂が発表を行った。

国内では、**2018年5月**にイェール大学からブラッド・インウッド教授を東京大学に招いて、セネカについてのセミナーとマルクス・アウレリウスの講演会を開き、多数の参加者と議論をした。**6月**には、プリンストン大学の中国古典研究者マーティン・カーン教授を東京大学に招いて文献学の研究会を開催した。**2019年3月**には、オランダ・フローニンゲン大学のタマー・ナワール博士らに東京大学で最新研究の報告をしてもらい、討論を行った。

【2019年度】

2019年7月にフランス・パリで開催された国際プラトン学会「第**14**回プラトン・シンポジウム」（テーマ：プラトン『パルメニデス』）に栗原裕次（**IPS** 実行委員）と納富信留、田坂さつき、荻原理が参加し、納富と田坂が研究発表を行った。

東京大学では**4月**にはタマー・ナワール博士（オランダ、フローニンゲン大学）を招いてプラトン『ポリテイア』で議論し、**6月**にはマーク・マクフェラン教授（カナダ、サイモン・フレージャー大学）を招いてプラトン『パイドン』の講演会を開催した。**9月～10月**にはオスロ大学からトマス・ヨハンセン教授を招いて、東京大学と立正大学でプラトン『ティマイオス』を主題にセミナーを開催した。

納富は**6月**にオランダ・フローニンゲン大学で開催された相対主義についての国際研究セミナーで発表し、**9月**に中国・中山大学で開催された第**5**回日中哲学フォーラム、**10月**に台湾・中国文化大学で開催された国際学会、**11月**に中国・北京大学で開催された古典学交際シンポ、

12月にアメリカ・プリンストン大学で開催されたプリンストン古代哲学会、さらに2020年2月にイギリス・オクスフォード大学で開催された「イメージ」セミナーに招かれて、それぞれの機会に英語で講演・研究発表を行った。

国内では12月に東京大学で研究会を開催し、土橋茂樹の著書『善く生きることの地平』『教父と哲学』の書評会を行った。

【2020-2021年度】

5年の計画で推進してきた本プロジェクトは、最終年度にあたる2020年度に新型コロナウイルス感染症によって大幅に予定を変更せざるを得なくなり、2021年度まで繰り越してその間に可能な仕方

で研究を進めた。国際研究発表はコロナ状況で機会が著しく制限されたが、2020年11月に韓国・ソウル大学主催でオンライン開催された第3回国際プラトン学会(IPS)アジア地区大会「プラトンにおけるイメージとイマジネーション」では、荻原が運営委員となり、納富が基調講演を、栗原が研究発表を行、多くの日本人メンバーがオンラインで参加した。その成果は2021年に韓国西洋古典学会の学会誌 *The Journal of Greco-Roman Studies* に掲載された。納富は2022年3月にはイタリア・ローマのサピエンツァ大学で開催されたFISPプログラム委員会に参加して、国際的な研究体制について議論した。

残念ながらこの間に海外からの研究者来日はいなかったが、納富は2020年9月に国際ソクラテス研究学会(ISSS)のオンライン講演で **Socrates among the sophists: reconsidering his position in the fifth century BC** というテーマで講演し、また、2021年11月には **The Royal Institute of Philosophy** 主催の「ロンドン講演地平の拡大(London Lectures Series 2021: Expanding Horizons)」に招待され、「日本人哲学者によるプラトンのアイデア(Japanese Philosophers on Plato's Ideas)」という発表を行い、それぞれネットで配信されている。

オンラインによる研究環境を活かし、2021年5月から定期的にズーム研究会でプラトン『ソフィスト』『政治家』を講読した。納富、田坂、荻原、田中伸司、近藤智彦が中心となり、複数の大学から学生・若手研究者が参加して活発な議論を行った。

これまで積み重ねた研究成果は2021年に納富『ギリシア哲学史』(筑摩書房)にまとめられ、2022年3月に和辻哲郎文化賞(学術部門)を受賞した。また、納富が共編したちくま新書『世界哲学史』シリーズの第1巻、第2巻で、栗原、荻原、近藤、土橋らプロジェクトメンバーが章の執筆を担当している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 納富信留	4. 巻 69
2. 論文標題 ソフィストたちのオリムピック 文化・政治・哲学的意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 99-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noburu Notomi	4. 巻 23
2. 論文標題 Plato, Isocrates and Epistolary Literature: Reconsidering the Seventh Letter in its contexts	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Plato Journal	6. 最初と最後の頁 67-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14195/2183-4105_23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Noburu Notomi	4. 巻 60-3
2. 論文標題 Images and Imagination in Plato's Republic and Sophist	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Greco-Roman Studies	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.23933/jgrs.2021.60.3.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 29
2. 論文標題 プラトン『パイドン』はどう読まれたか、どう読むべきか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西日本哲学会年報	6. 最初と最後の頁 41-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川岳男	4. 巻 47
2. 論文標題 タラス縁起話再考ーポリス「市民」の成立をめぐるー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋大学文学部紀要第75集史学科篇	6. 最初と最後の頁 59-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuhi Kurihara	4. 巻 60-3
2. 論文標題 Two Images in Plato ' s Statesman 277a-d	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Greco-Roman Studies	6. 最初と最後の頁 183-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.23933/jgrs.2021.60.3.183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 4
2. 論文標題 古代哲学をどう読むか レオ・シュトラウスとプラトンと私	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 89-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 605
2. 論文標題 大西祝の批評主義から見る『哲学雑誌』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学研究	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 142
2. 論文標題 浄めとしてのオリムピック エンペドクレスの奇跡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三田文学	6. 最初と最後の頁 196-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田坂さつき	4. 巻 143
2. 論文標題 国際学術交流報告 文学部国際学術交流招聘講演会の成果報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学文学部論叢	6. 最初と最後の頁 157-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大芝芳弘	4. 巻 517-8
2. 論文標題 ホラーティウス『サトゥラエ』における詩と詩論(1)-Sat. 1.4 について-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 1-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗原裕次	4. 巻 517-8
2. 論文標題 『バルメニデス』篇「移行部」(135b5-137c3)の研究 後期プラトン哲学へのプレリュード	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 1-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中伸司	4. 巻 37
2. 論文標題 エルの物語はどのように「私たちを救う」(『国家』第10巻621C1)のか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡哲学会編 文化と哲学	6. 最初と最後の頁 71-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027721	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 14
2. 論文標題 アリストテレスのプラトン「イデア論」規定 『形而上学』A6, 987b7-10再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フィロロギカ	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 13
2. 論文標題 ハイデガーとプラトンの対決	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Heidegger-Forum	6. 最初と最後の頁 77-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 17
2. 論文標題 古典文献学の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田坂さつき	4. 巻 61
2. 論文標題 古代ギリシア哲学における魂論と「心の哲学」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京都立大学哲学会編 哲学誌	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田坂さつき	4. 巻 36
2. 論文標題 ソクラテスの探究と産婆術 - 『テアイテトス』導入部 (142a-151d3)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田坂さつき	4. 巻 13
2. 論文標題 ゲノム編集の生殖への応用をめぐる倫理問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 21世紀倫理創成研究	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川岳男	4. 巻 45
2. 論文標題 大レトラとタラス建市ー古典期スパルタ社会の形成について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋大学文学部紀要 史学科篇	6. 最初と最後の頁 274-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 34
2. 論文標題 哲学の普遍性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室 論集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kurihara	4. 巻 2
2. 論文標題 Socrates as a 'Radical' Politician	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the XIII World Congress of Philosophy	6. 最初と最後の頁 177-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 66
2. 論文標題 伝プラトン著『第七書簡』の再検討 前四世紀の書簡文学から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 12
2. 論文標題 プラトン『ポリテイア』I.334d-eのポレマルコス論駁	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 フィロロギカ	6. 最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 68
2. 論文標題 始まりを問う哲学史 複眼的ギリシア哲学史の試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大芝芳弘	4. 巻 12
2. 論文標題 Horatius, Carm. 2.16 Otium divos	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 フィロロギカ	6. 最初と最後の頁 15-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川岳男	4. 巻 41
2. 論文標題 ヘレニズム世界の歴史的意義についてーギリシアとローマの間でー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関学西洋史論 集	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中伸司	4. 巻 15
2. 論文標題 プラトン『国家』第10巻において なぜ詩人の追放が語られるのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ギリシャ哲学セミナー論集	6. 最初と最後の頁 44-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中伸司	4. 巻 34
2. 論文標題 哲学における対話の意味	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 静岡哲学会編 文化と哲学	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻原理	4. 巻 49
2. 論文標題 プラトン『法律』における説得	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 メトドス	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田坂さつき	4. 巻 15
2. 論文標題 知識の定義とイデア論—プラトン『テアイテトス』と「ポリテイア」をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ギリシャ哲学セミナー論集	6. 最初と最後の頁 62-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田坂さつき	4. 巻 34
2. 論文標題 臨床哲学対話から生命倫理問題を問う	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立正大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 67-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐野好則	4. 巻 72
2. 論文標題 『オデュッセイア』と『アルゴナウティカ』におけるセイレーン・エピソード	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ペディラヴィウム	6. 最初と最後の頁 7-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noburu Notomi	4. 巻 -
2. 論文標題 Plato's Sophist	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oxford Bibliographies in "Classics"	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/OBO/9780195389661-0247	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 13
2. 論文標題 西田幾多郎と田中美知太郎 日本哲学とギリシャ哲学の協働のために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本哲学史研究	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 131/803
2. 論文標題 出で遣いへの言葉 井上忠との哲学	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 哲学雑誌	6. 最初と最後の頁 57-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 納富信留	4. 巻 11
2. 論文標題 裁判員は何を被ったのか？ プラトン『ソクラテスの弁明』冒頭のメッセージ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 フィロロギカ	6. 最初と最後の頁 57-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗原裕次	4. 巻 48
2. 論文標題 プラトンの公私論序説 『ポリテイア』第10巻の「立派な人」考	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 メトドス	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤智彦	4. 巻 14
2. 論文標題 活動としてのテオリアー アリストテレスからケケロへ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ギリシャ哲学セミナー論集	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋雅人	4. 巻 31
2. 論文標題 プラトン『法律』における女性と節制	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 女性学評論	6. 最初と最後の頁 133-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻原理	4. 巻 14
2. 論文標題 ギリシャ哲学研究と哲学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ギリシャ哲学セミナー論集	6. 最初と最後の頁 64-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田坂さつき	4. 巻 140
2. 論文標題 The Structure of the First Part of the Theaetetus(151d7-187a8)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立正大学文学部論叢	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計56件 (うち招待講演 23件 / うち国際学会 29件)

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Japanese Philosophers on Plato 's Ideas
3. 学会等名 London Lectures 2021: Expanding Horizons (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 ギリシア哲学が直面した運命と偶然 ソフォクレス『オイディプス王』とアリストテレス『詩学』を中心に
3. 学会等名 比較思想学会第48回大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 ソフィストたちのオリムピック 宗教・文化・政治的意義
3. 学会等名 第71回西洋古典学会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田坂さつき
2. 発表標題 学術会議提言「人の生殖にゲノム編集技術を用いることの倫理的正当性について」について
3. 学会等名 東京都立大学哲学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗原裕次
2. 発表標題 プラトン『政治家（ポリティコス）』にみる「人の支配」と「法の支配」
3. 学会等名 京都ヘーゲル読書会 夏期研究例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 プラトン『パイドン』はどう読まれたか、どう読むべきか
3. 学会等名 第71回西日本哲学会大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Images and Imagination in Plato's Republic and Sophist
3. 学会等名 The 3rd Asia Regional Meeting of the International Plato Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Socrates among the sophists: reconsidering his position in the fifth century BC
3. 学会等名 ISSS (International Society for Socratic Studies) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuji Kurihara
2. 発表標題 Two Images in Plato's Statesman 277a-d
3. 学会等名 The 3rd Asia Regional Meeting of the International Plato Society (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 "Likeness" in Plato's Sophist and Parmenides
3. 学会等名 TORCH 'Image and Thought' Network Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Protagoras' On Gods: its context and an open tradition
3. 学会等名 Princeton Classical Philosophy Conference (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Greek Philosophy in the context of World Philosophy: on universality
3. 学会等名 第6回中日哲学フォーラム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Homonymy and Likeness in Plato's Parmenides
3. 学会等名 The 11th Symposium Platonicum, International Plato Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Protagoras and the Sophists on Truth
3. 学会等名 Conferece: Truth and Relativism in Ancient Philosophy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 明治思想と西洋哲学
3. 学会等名 東亜人文社會科學研究的地平線 人物、文化、思想、海洋與經濟的交匯（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 大西祝の批評主義から見る『哲学雑誌』
3. 学会等名 第36回日本哲学史フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satsuki Tasaka
2. 発表標題 From the Theaetetus to the Parmenides
3. 学会等名 The 11th Symposium Platonicum, International Plato Society（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋雅人
2. 発表標題 第一テトラロギアにおける『エウテュプロン』
3. 学会等名 専修大学哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川岳男
2. 発表標題 古代地中海世界における人々の移動を考える
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中伸司
2. 発表標題 専門家のいない領域で哲学者は何をするのか？
3. 学会等名 中部哲学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中伸司
2. 発表標題 エルの物語はどのように「私たちに救う」（『国家』第10巻621c1）のか
3. 学会等名 静岡哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 哲学の普遍性
3. 学会等名 第5回東京大学・全南大学哲学科学術交流シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 アリストテレスのプラトン「イデア論」規定再考 『形而上学』A6, 987b7-10
3. 学会等名 第17回フィロロギカ研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 ハイデガーとプラトンの対決
3. 学会等名 ハイデガー・フォーラム第13回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Thinking of the Ideas from the East
3. 学会等名 4th Conference on Contemporary Philosophy in East Asia (CCPEA2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 How Modern Japanese People Read Plato's Politeia
3. 学会等名 International Symposium: Plato, his Dialogues and Legacy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Thinking of the Ideas from the East
3. 学会等名 International Conference: Plato's Philosophy in Interdisciplinary Context (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Why Soul Matters: Reconsidering the Philosophical Contexts of Plato's On Soul
3. 学会等名 Forming the Soul: Plato and his Opponents; 2nd Asia Regional Meeting of the IPS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Kurihara
2. 発表標題 The Parmenides as a Starting Point of Plato's Later Philosophy
3. 学会等名 The XXIV World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗原裕次
2. 発表標題 プラトンの魂論と「心の哲学」
3. 学会等名 第42回東京都立大学哲学会 研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satsuki Tasaka
2. 発表標題 On Socrates' midwifery and his disavowal of knowledge in the Theaetetus
3. 学会等名 The XXIV World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satsuki Tasaka
2. 発表標題 The Definition of Knowledge and the theory of Forms
3. 学会等名 IPS Russian Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田坂さつき
2. 発表標題 ゲノム編集における倫理問題
3. 学会等名 日本学術会議哲学シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Mouvance?: An open tradition of Protagoras' On Gods
3. 学会等名 The International Protagoras Network Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 哲学とは何か
3. 学会等名 第56回哲学会 研究発表大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 伝プラトン著『第七書簡』の再検討 前四世紀の書簡文学から
3. 学会等名 第68回日本西洋古典学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 納富信留
2. 発表標題 始まりを問う哲学史 複眼的ギリシア哲学史への試み
3. 学会等名 第76回日本哲学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川岳男
2. 発表標題 ヘレニズム世界の歴史的意義についてーギリシアとローマの間でー
3. 学会等名 第20回関学西洋史研究会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中伸司
2. 発表標題 プラトン『国家』第10巻においてなぜ詩人の追放が語れるのか
3. 学会等名 第21回 ギリシャ哲学セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田坂さつき
2. 発表標題 知識の定義とイデア論—プラトン『テアイテトス』と「ポリテイア」をめぐって
3. 学会等名 第21回 ギリシア哲学セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Imagination for Philosophical Exercise in Plato's Republic: The Story of Gyges' ring and the Simile of the Sun
3. 学会等名 Ancient Worlds Research Cluster Meeting at Yale-NUS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 The role of Plato in modern Japanese Philosophy
3. 学会等名 The 3rd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia (CCPEA 2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 The soul and Forms in Plato's Phaedo
3. 学会等名 XI Symposium Platonicum, International Plato Society (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Noburu Notomi
2. 発表標題 Imagination for philosophical exercise: the story of Gyges' ring and the simile of the Sun
3. 学会等名 New Perspectives on Plato's Philosophy (Novas Perspectivas na Filosofia de Platao) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yuji Kurihara
2. 発表標題 Plato's "Decent" Person in Republic 10
3. 学会等名 Ancient Worlds Research Cluster Meeting at Yale-NUS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 近藤智彦
2. 発表標題 活動としてのテオリアー アリストテレスからケクロへ
3. 学会等名 第20回ギリシャ哲学セミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takeo Hasegawa
2. 発表標題 The Cause of Greek Decline Revisited: How Should We Consider Them in the 21st Century?
3. 学会等名 Decline and Decline-Narratives in the Greek and Roman World (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金子善彦
2. 発表標題 アリストテレスにおける動物の知性と表象 『動物誌』から魂論へ
3. 学会等名 三田哲学会 哲学・倫理学部門 例会 (MIPS)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中伸司
2. 発表標題 哲学における対話の意味
3. 学会等名 静岡哲学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoshinori Sano
2. 発表標題 The Allure of the Sirens: Ancient Greek Texts, Iconography, and Beyond
3. 学会等名 Liminal Existence in Art and Literature (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大芝芳弘
2. 発表標題 Horatius, Carm. 2.16 Otium divos
3. 学会等名 第15回フィロロギカ研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satoshi Ogihara
2. 発表標題 Immortality and Eternity: Cebes' remark at PHAEDO 106d2-4
3. 学会等名 XI Symposium Platonicum, International Plato Society (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satoshi Ogihara
2. 発表標題 Immortality and Eternity: Cebes' remark at PHAEDO 106d2-4
3. 学会等名 FELC seminar (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荻原理
2. 発表標題 ギリシャ哲学研究と哲学
3. 学会等名 第20回ギリシャ哲学セミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satsuki Tasaka
2. 発表標題 The Structure of the First Part in the Theaetetus (151 d 7-187 a 8)
3. 学会等名 III International Congress of Greek Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satsuki Tasaka
2. 発表標題 Loving and Knowing
3. 学会等名 5th Annual International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計28件

1. 著者名 納富信留	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 750
3. 書名 ギリシア哲学史	

1. 著者名 納富信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 192
3. 書名 対話の技法	

1. 著者名 納富信留	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 248
3. 書名 西洋哲学の根源	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 世界哲学史 別巻	

1. 著者名 Yosef Z. Liebersohn, John Glucker, Ivor Ludlam, Noburu Notomi, Tomohiko Kondo	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 282
3. 書名 Plato and His Legacy	

1. 著者名 田坂さつき、香川知晶	4. 発行年 2022年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 290
3. 書名 人のゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して	

1. 著者名 田坂さつき	4. 発行年 2022年
2. 出版社 角川文化振興財団	5. 総ページ数 196
3. 書名 立正大学文学部学術叢書08 臨床哲学 立正大学文学部哲学科での取り組み	

1. 著者名 浜本裕美、河島思朗、大芝芳弘、栗原裕次	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 388 (140-184, 228-251)
3. 書名 西洋古典学のアプローチ	

1. 著者名 大芝芳弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bibliotheca Wisteriana	5. 総ページ数 337 (109-134)
3. 書名 藤花のたわむれ - 久保正彰先生卒寿記念論集-	

1. 著者名 納富信留	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 プラトン哲学への旅	

1. 著者名 プラトン、納富信留	4. 発行年 2019年
2. 出版社 光文社	5. 総ページ数 336
3. 書名 パイドン	

1. 著者名 納富信留、土橋茂樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 248 (22-44)
3. 書名 存在論の再検討	

1. 著者名 神崎忠昭、野元晋、納富信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 312 (3-20)
3. 書名 自然を前にした人間の哲学	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留、栗原裕次、荻原理	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320 (11-45, 189-212, 241-264)
3. 書名 世界哲学史 1	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留、近藤智彦、土橋茂樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288 (11-36)
3. 書名 世界哲学史 2	

1. 著者名 金澤周作、藤井崇、青谷秀紀、古谷大輔、坂本優一郎、小野沢透	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340 (16-17)
3. 書名 論点・西洋史学	

1. 著者名 Gabriele Cornelli, Thomas M. Robinson, Franciso Bravo, Noburu Notomi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Academia Verlag	5. 総ページ数 407 (288-293)
3. 書名 Plato's Phaedo: Selected Papers from the Eleventh Symposium Platonicum	

1. 著者名 Nicholas Smith, Noburu Notomi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Bloomsbury Academic	5. 総ページ数 256 (49-66)
3. 書名 Knowledge in Ancient Philosophy, The Philosophy of Knowledge: A History, Volume I	

1. 著者名 Luca Pitteloud, Evan Keeling, Noburu Notomi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 143 (1-13)
3. 書名 Psychology and Ontology in Plato	

1. 著者名 納富 信留	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 哲学の誕生	

1. 著者名 納富信留、土橋茂樹、樋笠勝士、上枝美典、神崎忠昭、遠山公一、谷寿美、香田芳樹、野元晋、藁谷敏晴、山内志朗	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 288 (5-25)
3. 書名 光の形而上学	

1. 著者名 プラトン、田中 伸司、三嶋 輝夫	4. 発行年 2017年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 168 (9-74, 107-127, 145-150, 155-157)
3. 書名 リュシス 恋がたき	

1. 著者名 高橋雅人、景山佳代子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 113 (34-51)
3. 書名 やさしさ	

1. 著者名 Noburu Notomi, John Sallis, Michael Naas, Sara Brill, S. Montgomery Ewegen, Walter Brogan, Nickolas Pappas, Mitchell Miller, Guenter Figal, Eric Sanday, James Risser, Robert Metcalf, Drew Hyland, Robert Bartlett, Ryan Drake, Burt Hopkins, Gary Gurtler	4. 発行年 2017年
2. 出版社 SUNY Press	5. 総ページ数 334 (183-195)
3. 書名 Plato's Statesman: Dialectic, Myth, and Politics	

1. 著者名 Noburu Notomi, Yuji Kurihara, Mauro Tulli, Michael Erler, Stephen Halliwell, Francisco Bravo, Luc Brisson, Gabriel Danzig, Maurizio Migliori, Harold Tarrant, Giovanni R. F. Ferrari, Lidia Palumbo, Richard Stalley, Samuel Scolnicov, Roslyn Weiss, Mario Regali, Filip Karfik, Mario Vegetti, Christopher Gill	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Academia Verlag	5. 総ページ数 541 (124-130, 278-284)
3. 書名 Plato in Symposium: selected papers from the tenth Symposium Platonicum	

1. 著者名 納富信留、橋場弦、村田奈々子、飯塚隆、深代千之	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 260 (57-104)
3. 書名 学問としてのオリンピック	

1. 著者名 栗原裕次	4. 発行年 2016年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 426
3. 書名 プラトンの公と私	

1. 著者名 田坂さつき、板橋勇仁、木村史人、竹内聖一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 140 (69-98)
3. 書名 哲学 はじめの一步 働く	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長谷川 岳男 (Hasegawa Takeo) (20308331)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	
研究分担者	栗原 裕次 (Yuji Kurihara) (40282785)	東京都立大学・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	田中 伸司 (Tanaka Shinji) (50207099)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大芝 芳弘 (Oshiba Yoshihiro) (70185247)	東京都立大学・人文科学研究科・客員教授 (22604)	
研究分担者	田坂 さつき (Tasaka Satsuki) (70308336)	立正大学・文学部・教授 (32687)	
研究分担者	高橋 雅人 (Takahashi Masahito) (90309427)	専修大学・文学部・教授 (32634)	
研究分担者	金子 善彦 (Kaneko Yoshihiko) (90278309)	慶應義塾大学・文学部（日吉）・教授 (32612)	
研究分担者	近藤 智彦 (Kondo Tomohiko) (30422380)	北海道大学・文学研究科・准教授 (10101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Forming the Soul: Plato and his Opponents: 2nd Asia Regional Meeting of the IPS,	開催年 2018年～2018年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------